

慶応二年四月十四日より慶応二年四月十八日まで

P8310584 right

建白【判読不可】甲州より鰐(鮫)並鰐(つば)の紹介有し買入る、手馬病に付、別当周旋せしめ、他より馬を借る

【判読不可】の件々周助して正覚方へ問合せに遣す、広沢(悦)志願筋にて来りし旨、長蔵来り過日持越せし清光短刀持帰る、右序預り□、鰐五枚返す

十五日辰 晴暁兩度震、午下陰雷、夕前晴

宅調、松盛斎不快の趣に付、昨來の菓子折時服残を為持遣し病を訪ふ、荒井(為)來る不面正覚稽古に來る、金瓢目貫代を渡す、見せ馬二疋來る、何れも意に適せず返す

十六日巳 晴風午下風

暁大塚辺出火に付、見舞使者栗出へ遣す、類焼せし旨、山崎(衡)志願筋にて來る

松盛斎稽古に來る、病馬

に付、駕を用て出 殿■より時斗代四拾円余さし越す、朝此奈(甲州□)鮫代、鰐代とも頼む保三

P8310584 left

来りし旨、町田(耕)来り洋菓美一籠持参し退出ころまた可來趣申□し旨、藤山稽古に來る例の設あり、周助して須崎村抱屋敷へ行しめ件の相談せしむ、右序須崎伯母時服残を分与す、右町田また来り、次男友野力志願筋頼聞る、時服残二を遣す、見せ馬四疋來る、内壺疋直組いたし遣す

前周助書類持帰る事実さらに□分明也、長蔵來る過日預置し応價の方、刀壺本返し遣す

十七日午 陰

茂呂(恒)來る辞して不面、荒井(為)志願書持來る、正覚來る抱屋敷疑問弁明の為め也、出 殿、

此の如

駕を用ふ、見せ馬二疋來る、壺疋は進引に当□

十八日未 雨午前止猶陰

長蔵来り、刀壺本を示す、留置く馬直組治定す、出 殿、詰番英。パークスへ泉防兩州御逢

*1:

()内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】および■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。